インパクトであるが故

生で一度論文を掲

けられている

ており、

世界中の医師が

年3回、その内、2回の出また編集委員会は当時は

であり、

また医学部長と

の編集委員

さて2月

のCPCに興味を持っ Mは学生時代からMG 招待状であった。

かして話して下さった。

ンであったが、まず慶應集委員会は10月のボスト

あった。

ならない。

しかし私は

準備をしていかなければ

ストランで夕食会を開 Burke夫人のご希望の

Burke先生が孫弟

議論に耐えられ 前から情報の収

夫妻と留学生を招待.

学系定期刊

一物としては

揮を執り、

**昇最古であり、** 

発展

した。

年

たが、1846年、世界

師と地域の医師との連携

閲覧が増えている。

今日

20

0年よりNE

200 Yes であり、

あり、トピックスとし)Years of Progress-

義深く、

NE J M 2 0

Mアー

カイブを備えた新

のエーテル麻酔を報告

さらに椎間板ヘルニ

してきた

た事実等で

義塾大学が私立大学の雄

るとNEJMの編集委員

れ、NEJMの現大上哥の機会に医学部長室を訪

教授から一通の手紙が届 集委員長Jeffery Drazen Journal of Medicine)の編

た。手紙を開封してみ

Drazen教授が中

国訪

された。

教室の内外 の業績が高

も経験している。

留学生の楽し

思い

慶應義塾大学外科学

7時より和気藹藹とした

Mの発展に結びついてい

を見る事が楽しみでもあ

った。

子供たちの成長

がってくるようにな

開始した。

手Dr.

New England Journal of

戦の最中に当時の編集委

第2次世界大

を無料で提供し、199

オンラインアクセス

国120カ国に対

年を迎え、本年6月22日

**入学医学部** 

段階評価であったが、

本 3

にはやや目をつぶり、

びる所に力を注がなけ

>今後の社にがなけれ いぶり、伸

0年以降の論文は全て無

Warrenに変わり、

Medicineと誌名を改めた。

員長Dr.

Joseph Garland

料公開となっており、

0年祭の話題が持

改変が

週刊での発行を

契機に

1928年、

また夜は恩師のご

NEJMは創刊以来、

仃が継続されてきた医

集委員長となり31

B Shattuck

雑誌として 雑誌として 雑誌として

最新の医学情報を発信す

米軍医師全員にNEJM は世界中で参戦している

たNEJM orgによりプリ

Dialogues

in Medicine-タイトルは

96年に立ち上げられ

催された。

た。

年記念シンポジウムが開 レンスセンターで20 Joseph Martinカンファ

古屋大学)が表彰を受け 邦からは水谷達央君(名

ト版よりもオンライン

Physicians:

Patients on

短期間であったが特に意

今回もボストン滞在は

政府は結論が出せず、今題は医療・介護である。

会保障における最大の難

ばならない

回の法案では医療・介護政府は結論が出せず、今

を無料で配布

し。米軍医

NEJMは創刊時より

る。

したがって各委員は

の午後から6時までで

るが、

つ一つがNEJ

数名との懇親の席を設け、

師や外科教室

て初めてGrey-Turner

さて、

編集員会は金曜

万法など多様であ

後に家族全員と昼食会を

手紙を受け取った後に

など楽しいひと時を過ご

て受け取ったことを何度 名刺を渡すよりも緊張

(昭和26年4月18日第三種郵便物認可)

0 M

突然N

医師に渡すと、学部長の でNEJMの名刺を若

元へ留学

た呼吸器

会に於

ようになった。

終了

後にDrazen教授

とを記憶している。 ね〟と即座に言われたこ なるより名誉なことです って "慶應の医学部長に

確かに外国の学会など

た講演をしてくださり、

師や医学生を対象にNE は医学部の階段教室で医

ていた経験、2)20

年のブリュッセル(ベ

航し快適にフライトスケ

が課題を選択する。例え ルで送られてきて、

ボストンの真

行便が運

に於ける万国外

ジュー

の心配もなくボ

ば雑誌の将来の電子ツ

GHには慶應大学外科か

び恩師や留学生との交流 で10年間の編集委員会及

5人の留学生が滞

の子

位前の編集委員会から創 を過ごしてきたが、

and

雑誌名をBoston

ton Medical Journalビ

式機関誌になった事を

Hampshire 及び Vermont

療の進歩に関する数多く

雑誌であると同時に現在、

てきたNEI

M ₹ 2 0

年記念エッセイコンテス

全世界の大

っているときには、公平基本であり、国の力が弱を考える」のが

このように高質の医学

このように常に前進し

血病に対する分子標的治

の論文を掲載してきた。

さらに1

927年New

23年創刊)を統合

0周年記念学

ストンに行く事が出来る

生へのプロモーション、川水、利益相反の問題、学

JMについて熱の籠もっ

(1)

ヘンなどで開催さ

ることも知ってい

同でNEJMから の話をしたところ、

月はヨー

リッパの都市、

ロンドン、

委員が話してくれたが、

その選定理由を一人の

が、両飛行

F Burke教授から研究のた。留学中は恩師John

3年であったが、20 国人の編集委員は任期が

> Collins Warrenは同僚 た解剖学者のDr.

イングランドのメデ

力

は世界中に恐怖を及ぼし

たAIDSの症例報告や

高い医学雑誌であり、

ションが最も

2010年からは

ニオンリ

オンリーダーからの最、各トピックスのオピ

5

先端の情報の発信と白!

年ジャ

ノリズム

するImage Challengeは iPhoneアプリの提供も行

感銘を与え、

感銘を与え、その余韻はした議論は出席者全員に

あった。

をしてきた。 また近年で

み、文献引用、すなわ 以上が毎週NEJMを

者の立場に立って改善が

れ、各ト

は欧米から招

Cardiologyであった・

われている。

ーナリズム史

だ。

アスピリンとコレステロ現代では一般的になった

の貢献を称えるPolk

James Jackson シン

多少戸惑うこともあっかったが、時差や言葉で

和感を感じることは少な

も自分の留学時の事を思

College

Massachusetts Medical

築され、当時コアメンバのでは、

小児白血病の治療成功例

き金になったようである。

948年) など臨床

現在、

177カ国60万

こューアル化を計り、し、常にコンテンツの

(iii)

Breast Cancer,

(AI)

の報告

934年)、

されているが、これが引 世界中でNEJMが愛読

いWEBサイトを開始

Maternal & Fetal Health, ト (i) HIV/AIDS,

こと、

また昨年ご逝去さ

本の成長の鍵である。現フサイエンスは今後の日

(i:

集委員として参加できた 年の記念式典に現職の編

需要が大きく、

、また、ライ

れた。医療・介護は潜在

は完全に先送りさ

さて編集

の医師であっ

「本誌はまざしく、ニュー 「本誌はまざしく、ニュー

ださる姿を拝見

嬉しそうに耳を傾けてく 子達の研究や生活の話に

ると、

その歴史を繙いて

Medical Societyが買い になるとMassachusetts になるとMassachusetts

ことも知っていた。当したいという雑誌であ

事を知った。

すなわち2

したかの説明はなかった

雪のボスト

編集委員に選定

カゴ経由で

会は常にシ

会の様子

学経験があったので、

と記憶している。

ゲノム医学講座 特任教授東京大学大学院医学系研究科ゲノム機能研究部 教授

應医学賞

年より29名の研究者に対

Rosenberg博士

し授与しています。

第17回目を迎えた今年

間野

士

彰するもので、

業績をあげた研究者を顕

慶應義

享九

学

病

研究所所長)、垣生園子ん研究会常務理事・がん

(順天堂大学医学部客員研究所所長)、垣生園子

新

がんワクチンやが

導入して作製した抗腫瘍 伝子を末梢血リンパ球に でする末梢血リンパ球に

腫瘍免疫学の発展とがん年、この分野を牽引し、

互換性)

ことになっている(単位

ん抗原を多数同定し、

それが認識する

抗原特異的T細胞受容

効果を示しま

大学から単位を取得する工事をもとにそれぞれの工事をもとにそれぞれの工事をもとにそれぞれの工事を対象を表している。

リンスカで、

再来年度は

ような機会を積極的に利人でも多くの学生がこの

・免疫」をテーマにカロ

参加する予定である。

ジルでは、

ン川巡回診療船へ|は、恒例となった|

アマゾ

Rosenberg博士

長

学で合同サマースクー

することを願っている。 用して海外でチャレンジ

月間の活動を終え、9月 たっ 回診療への協力を行って 回診療への協力を行って の同乗や、原住民族の巡し

(安井正人

薬理68回)

事に帰国した。

団員たちは全員無

きる事であろう。

派遣団の活動の詳細

政府債務残高は、

した。我が国の

P比約220%に達して

「癌」をテーマに北京大

教授)、

日比紀文(医学

いる免疫療法を開発

療法を開発し、

貢献をされました。 免疫療法の開発に多大な

た養子免

部教授)、

御子柴克彦

各

種

診

療

(自治医科大学学長)

(公益財団法人が

報学部教授)、

永井良三

を確立しました。

またヒ

特に、腫瘍浸潤リ

抗腫瘍Tリ

パ球を解

L)療法や、

が

などに対して強力な治療 抵抗性の進行悪性黒

色腫

された。カロリンスカ、

ンター 度の慶應医学賞受賞者は 大学分子病態治療研究セ 治 ム機能研究部 にこ 献 由を発表致しました。 会は左記のとおり授賞理

おいて医学を中心とした

学の発展に寄与する かつ創造的な研究

教授、 学系研究

医学・生命科学の領域に

慶應医学賞は、

世界の

ラ

 $\exists$ 

な

研

研

東京大学大学院医 ピゲノム医学講 の2名に決定 Steven (NCI) (米国国 一行政法人日本学術振興会拠点長)、浅島誠(独立 委員 静男 ロンティア研究センタ 、医学部教授)、審良員【岡野栄之(委員第17回慶應医学賞審査 (大阪大学免疫学フ

授)、須田年生(医学部長)、河上裕(医学部教医療福祉大学大学院院医療福祉大学大学院院 河上裕(四河上裕(四河上裕)(四年生 (環境情 タ ムシニアチ 吉村昭彦 発生神経生物研究チ 脳科学総合研究セン 行政法人理化学研

(木) に北里記念

スカからは3名の教員と

られたテーマ研究を行っ それぞれの研究室で与

の後、

末松医学部

から

衛生学教室教授、

団 長

行った。

教授、団員…梶川慶太君

ルコでは、

現地大学病

院での実習に加わった

保健省にて災害医療

海外諸国に 回生)

につ

んだり、

また

三村將精神神経科学教室

最初の活動場所である

そ

(会長…武林亨公衆

か国で計51日間の活動を

(三四会協賛)。

カロリ

かの研究室に配属され、

スカ・北京大学合同サマ

慶應・カロリン

カロリンスカの 週目からは、

表を行なったが、

表を行なったが、限られた学生がそれぞれ研究発

前にて国際医学研究会

派遣団は同日に成田空港

より出発し、トルコ、ベ

北里講堂

気込みを語ってくれた。

51

日間

の活動を終え、

A

第 35

数名ずついくつ

た時間に多くのこと

を学

の出発式が執り行わ

ラルーシ、

ブラジルの3

漕ぎ着けたが、

既に遅き

した感さえある。

うき上げだ

税を引き上げるところに

である。今回、漸く消費

シャでさえ1ヵ

が問題となっているギリ

る。事実上

の財政破綻

M A

第35次派遣団

慶應医学賞審査委員 2名 世界十

合

同

サ

應

•

口

•

ら、学内外の930~それで、一よび研究機関から推薦された候補者の中よび研究機関から推薦された候補者の中 賞者には賞状とメダルおよび賞金が贈呈さ 査を経て、受賞者を決定しており 医学図書館2階北里講堂にて授賞式および れます。本年は11月29日 経て、受賞者を決定しております。受学内外の79名の審査員による厳正な審学内外の70名の審査員による厳正な審 数カ国の著名な研究者お

受賞記念講演会を開催致します。

子を検出する方法を開発 解明に貢献しまり らかにし、発がん機構の でも原因となることを明 床検体を用いて融合遺伝 台遺伝子は、 スティーブン A. ローゼンバーグ Steven A. Rosenberg 博士 LK異常肺が 上皮系がん さらに臨 米国国立がん研究所(NCI) 治療効果を示すこと、までALK阻害剤が劇的な **断のためのコンソーシア** たその耐性機構も見いだ ま 間野博士は、

いた基礎研究から臨野博士は、臨床検体

も成功

床まで一貫したトランス

が参加っ

サマ

ースク

ーショナルリサ

んから、独自に開発した

外科部門長

義

J

創

2

を

迎え

苦慮してきた。 フライトスケジュー

しかし

られる。

その後、

土曜日

必

晩餐会が10時頃まで続け

あるい

ロッパの大都市 時には編集委

は午前7時から正午

ャンの姿など薫陶を受け はアカデミック・サ HとMIT連携、

の内容であり、

私も世

月に創刊された雑誌

委員を続けてほしい "Masakiもう少し編集

着手した。

18

なる医学雑誌の創

てきたので、この教えが

閉会となるのが

編集委員あるい

て多くの事を学び、

という気持ち

Surgery and the Collateral

だCase Records of the

Journal of Medicine

and

学生時代に読ん

の雑誌の編集委員とし

名は"The

England

年には新し と述べている。

いコンテンツ

編集委員としてともに歩

んだ10

年

でもあり、

国際医療福祉大学

学 長

 $\widehat{45}$ 

口

員の子弟も参加

楽

多くの思い出を作る事

編集委員会は予め、 般的である。

前に小グル

その後、

Drazen教授

ーチしており、

大学に留学

本年度より成田

の為の3~

4課題がメ

の支えとなった。

またボストン訪問の際 恒例行事として常にM

ている。このような情況

2年の今日に至っ

Science"であった

Branches

0f

dical

Massachusetts General Hospitalが開始され、一

Medical Intelligence (

828年にはBoston

流雑誌として地位を築き

の予防及び肺癌や慢性白

Award賞を受賞した米国

いる。

若い読者に好評を博して

博物館におけるレセプシ

ョンの席まで続いた。

ずっと難し

。経済政策

を後追いすることより

E

さらにNEJM2

では

、イを大きくして

ル降下剤による心疾患

が強かったので快諾

塾

ん原因遺伝子EML4-ALK 授賞研究テーマ 「肺が 授賞研究テーマ

の発見と分子標的治療へ

腫瘍効果をもつことを示 さらにALK阻害剤が抗 原因遺伝子であること、

従来、

間野博士は、ヒト肺が

いた染色体転座による融 腫瘍で重要と考えられて 医

学

たマウスを作製すること

により、それが肺がんの

ALK融合遺伝子を同定 グ法により、新規EML4-機能的cDNAクローニン

し、その遺伝子を導入し

部

新

インター 法の効果を証明 開発することにより 疫学を発展させました。 Rosenberg博士は、新 のがんに対する免疫療 の抗腫瘍効果を見 悪性黒色腫と腎 ロイキン2 し腫瘍免

展だけでなく臨床 ん治療に多大な貢献をさ がん研究とが からも招聘され、 や京都大学、

がん生物学の発 川国際担当理事、末岡三プションも開催され、阿 となった。初日にはレセ 内容の濃い講義シリ った。講師は3校の教員 科学」をトピックに、一中心に、今年度は「神経 ゙ナノ医学」 「バイオイメ -ジング 間の集中講義から始め の3つのテーマを 連携大学院の理 脳科学センタ 「システム生 東京大学 かなり



先生方や学生たちが駆け 出発式には派遣団の3 した。第35次派遣団 皆様に恩返し出来 学生代表の梶川

られて出発の日を迎えら 君は、「沢山の方に支え 組んで参ります。」 よう日々全力で取り と意

全員での集合写真 視察や病院実習活動を行地の医療体制についての 君いずれも92 うとともに、幅広い国際 おける医療を体験し、 的視野を養う事を目的と 学を通じた国際交流を行 の派遣団を結成し、 年生の夏休みに3 北川剛裕君·上野真史

団体である。

毎年、

は二か国目のベラルーシ

出発した。ここで

週間の活動の後、派遣団

き上げが必要という

になる。これを少しでも

近くまでの消費税率の引

出来る限り成長させなけ

ばならない

- げるためには、

経済を

問を行ったりした。

ルコ三田会への表敬訪

金の活動に同行

はチェルノブイリ医療基

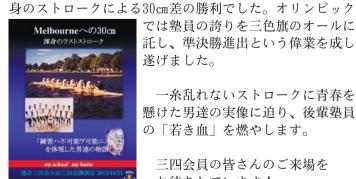
統合前の二雑誌の精神が 脈々と受け継がれている」 連合三田会大会

三四会講演会のご案内

Melbourne∧Ø30cm ―渾身のラストストローク 「練習ハ不可能ヲ可能ニス」を体現した男達の物語

日時:2012年10月21日(日) 11:30~12:30 会場:独立館DB203教室 出演:1956年メルボルンオリンピック

ボートエイト代表クルー他 1956年メルボルンオリンピック、ボートエイト競技で体 格に劣る欧米人と対等に渡り合い、準決勝進出という快挙 を成し遂げた日本代表、慶應義塾大学クルーの活躍は、戦 後の復興に喘ぐ日本の未来へ勇気と希望を与えました。慶 應義塾大学クルーは、前年度全日本選手権予選敗退から、 オリンピック出場を果たしました。京大とのオリンピック 代表決定戦は、大方の予想を覆すラスト49ピッチという渾



遂げました。 一糸乱れないストロークに青春を 懸けた男達の実像に迫り、後輩塾員 の「若き血」を燃やします。

三四会員の皆さんのご来場を お待ちしています!

今も 出発式集合写真

衡させるためには、17%でに基礎的財政収支を均 するだけであり、 底ならない。 減らしていくことには到

2020年ま

現在のト

次派遣団 活動の場を移した。ブラ目的地となるブラジルへ 神経科学教室教授、北川梶川慶太君、三村將精神 だ。ここでも約一週間の残る放射能問題を学ん 故の実体験を伺い、 活動を行った後、最後の アマゾン河にて。 無事帰国 (右から) 上野真史君、

けでは毎年の赤字が半

内のブログにて公開されは、IMAホームページ ちの貴重な体験を共有で ひご覧頂きたい。団員たているので、こちらもぜ 団員た 2 年の春に8

石川貴大) %まで消費税率を引き上げるための法案が、薄氷しているための法案が、薄氷している。

は、宝で、 は、ば、 なればなるほど、それを をどうやって確保するか 外旅行も楽しめる。そのいても、車も持てるし海 は、ここ約20年間、生産現在の積み重なった債務 求される。それは、他国維持するための努力が要 の中では、 果である。 になった。 社会保障費が増大 切っ 少子高齢化が進展し 政府債務はほぼ償還 た時期もあった。 国民の主たる関 バブルの絶頂期に しているところ して産業競争 本当は豊かに 地位も所得も 自分の取り 日本は豊か イトをして 国際競争

様と再会し、孫弟子の密 をする事が出来た事も私 ら、いろいろな思い出話学生と夕食を共にしなが にとって望外の喜びでも 場で活躍されている同門 体制を創っていきた 親和性のある医療・介護だきながら、経済成長と の諸兄のアイデアをい

古川俊治